

1153、皆さんはこの数字、何だと思いませんか？

これは、法令に基づいて東京都から「中核市」に移譲される事務項目数です（平成24年9月現在）。「中核市」とは、「政令指定都市」等とともに地方自治法に規定されている大都市制度の1つで、移行には人口30万人以上という要件を満たす事が必要とされています。事務項目が移譲されるという事は、事務を行う権限が移譲される事を意味するので、「地域への権限委譲」が進むという事になります。では、この1153事務の中には、どんな権限を持つ事務があるのでしょうか。例えば、子育て分野で言えば、保育所の設備及び運営基準の設定する権限があります。今までこの基準は、人口密度や地価の高い都内と、郊外の八王子市で、一緒の基準で運用されてきました。これが八王子独自で決められるようになると、保育の質を高める為に、保育室の面積要件をより広くしたり、逆に、待機児童を解消する目的で、面積要件を狭めて定員増を図ったりする事が可能になります。八王子の地域事情にあわせたきめ細やかな基準の設定と、それに伴う街づくりが可能になります。このほか、特別養護老人ホームの認可・監督の権限や、開発行為の許可の権限など、色々あります。ただ、移行に伴う東京都との交渉結果次第で、余計な財政負担を行わなければならない場合もあります。この点については注意しなければなりません。市議会も来年にかけて、これについて集中審議する予定です。東京都との交渉が、円滑に進む事を望みます。

ご意見、語る会(座談会)随時募集中！

お名前

お電話番号

ご住所

■ご意見・ご要望、座談会で語りたい事など

安藤おさみHP・ブログ【安藤おさみ】で検索！
メール：osamiando55@gmail.com

上記ご記入のうえ、この用紙をFAXください。

発行所 安藤修三後援会事務所：八王子市散田町1-7-2
TEL&FAX 042-664-1920 安藤修三後援会会報【討議資料】

修己治人

しゅうこちじん

Vol.4

平成24年11月15日発行

※「修己治人」とは、「学問等の修養して徳を積み、それにより人々を感化して世の中を良くしていく」という言葉です。吉田松陰の松下村塾でも、「修己治人の学」が説かれていたそうです。

八王子市議会議員

市民・民主クラブ

あんど う 修 三

安藤 おさみ

市政報告

ごあいさつ



肌寒く感じる日が多くなってきましたが、いかがお過ごしでしょうか。八王子市議会では、先日第3会定例会が開催され、主に補正予算や平成23年度決算の

認定についてアツい議論が行われました。私は会派を代表して、決算審査についての意見を述べさせていただきました。決算に関する詳細は、後に譲ります。補正予算では、主にJR八王子駅北口のマルベリーブリッジ延伸工事に関する議案などが審議され、可決されました。今回は京王八王子側へ一部延伸されることが決定しました。私は、東急スクエアと西放射線ユーロード側への連結、バスロータリーの利便性向上を訴えてきましたが、予算の関係上今回は一部のみの実現となりました。都市間競争に遅れをとっている感のある駅前中心市街地ですが、明確なコンセプトをもった駅前開発のグランドデザイン(青写真)をしっかり描き、それに沿って整合性のある再開発を行っていくべきです。今後も魅力ある駅前の実現に向け取り組んでいきますので、皆様のご意見等を頂ければと思います。また、今回は平成23年度の決算審査も同時に行われました。今後も、市民の皆様の付託に応えるべく、自己研鑽に取り組んで参ります。ご指導ご鞭撻のほど、宜しく願い致します。

<安藤おさみ プロフィール>

1980年4月28日八王子市散田町生まれ

【学歴】山田小、第七中、日大三高、日本大学卒業、早稲田大学大学院修了（公共経営修士）

【職歴】商社営業を経て、(株)船井総合研究所にて経営コンサルティング職として勤務

【政治活動】2011年八王子市議会議員に3,671票を賜り初当選。

厚生委員、交通対策特別委員会副委員長、議会基本条例素案検討委員として議会活動を行う。

一般質問&決算審議での主張(提案)

～みんなにやさしい自転車環境の整備を！～※第二回定例会より

皆さんは、自転車で車道を走っていて危険を感じたり、歩道を歩いていて自転車と接触しそうな事はありませんか？警視庁の統計によると、交通事故の5件1件が自転車が関連する事故です。背景には、震災以後、利用者が急増している事、自転車走行環境が整備されていない事、自転利用者のマナーの悪化等が挙げられます。そこで、①自転車ネットワーク道路を選定し、自転車レーンを集中整備する事。②自転車マナー遵守の周知徹底と共に、違反者にはペナルティーも検討する。③自転車が車道を走り易くする為、車への配慮を求める制度の検討。の3点を提案しました。歩行者、自転車、自動車が各々安心して通行出来るようパッケージの政策を検討すると共に、移動手段としての自転車のポテンシャルを最大限活かしていくべきです。市としても、快適な自転車環境実現に向け今回の私の提案も含め、前向きに取り組むとの答弁がありました。

～災害時の情報伝達手段の充実を！～※第二回定例会より

先の震災から、私達は大変多くの教訓を得ました。その中の1つが情報の重要性を再認識した事です。それを受けて、市では防災行政無線機の増設し、緊急防災メール等の検討をしています。今回私は、外に出たり窓を開けなくても、防災無線の情報がしっかり各家庭に届くよう、家庭用の防災無線機のあっせんを、市として実施するべきではないかと提案しました。色々な手段を駆使し、必要な情報がしっかり届く仕組みの整備が必要です。



※家庭用防災無線機のイメージ

～都市農業の強みを活かし、地産地消の推進を！～※決算審議より

都内NO.1の生産量を誇る八王子農業も、担い手不足と農地減少が大きな問題となっています。農地の相続の問題など、その要因は様々ですが、私は「農産物の生産性の低さ」が大きな要因となっていると考えています。簡単に言うと「農業が儲からない」からです。農水省の統計などでも、農業収入は全国平均を下回っています。その為、産業としての魅力が低くなり、新規就農者が伸び悩む一因となっています。では、どうしたら「儲かる」ようになるのか、一言でいうと、地産地消を進める事です。卸売り市場に出荷した場合、農家の手取りは店頭価格の20～30%。一方、直売所や直販の場合、75～85%が手取りになると言われています。八王子は生産地と消費地が近接しているという強みを持っています。この強みを活かし、これをもっと推進するべきです。道の駅滝山の開設等を通じて、市でもこれに取り組んでいます。しかし、その全体に対する割合は2割弱です。スーパーなど身近な所で、色々な品種を購入出来る仕組みも構築するべきです。地産地消は、消費者の安全安心、食育の面でも有効です。今後は地産地消推進条例の議員立法の研究も含め、活動していきたいと思えます。

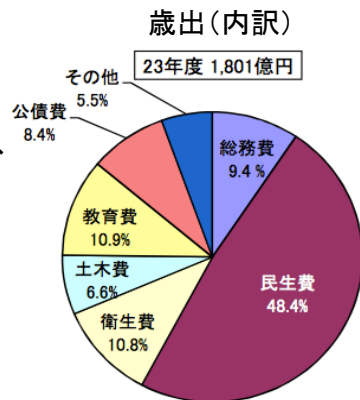
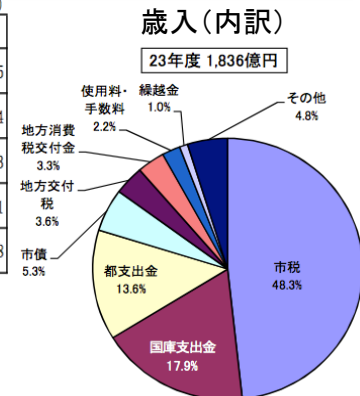
平成23年度決算の概要(一般会計)

区 分	23年度	22年度	増 減	増減率 %
歳入決算額 A	183,614,089	196,436,064	△ 12,821,975	△ 6.5
歳出決算額 B	180,104,143	194,592,027	△ 14,487,884	△ 7.4
形式収支 C (A-B)	3,509,946	1,844,037	1,665,909	90.3
翌年度へ繰り越すべき財源 D	510,377	147,486	362,891	246.1
実質収支 E (C-D)	2,999,569	1,696,551	1,303,018	76.8

※表・図は八王子市財政白書より抜粋

平成23年度は、震災の混乱がさめやぬままにスタートした年でした。私としても、震災対応を急ぐよう要望して参りましたが、補正予算を駆使しながら、放射線対策や防災無線等の拡充を実施しました。実質収支は昨年に引き続き大幅な黒字決算となりました。ただ、状況は楽観出来るものではありません。自主財源の柱である市税が、当初予算よりも18.7億円少ない収入となりました。一方、国からの地方交付税が当初見込みよりも24億円多く交付されました。交付税に大きく助けられた形です。交付税の額は、時の政権の方針に大きく左右されます。国政が不安定な状況の中で、これに過度に依存すると危険な事態にもなり得ます。今後も、健全な財政が維持されるよう、監視して参ります。

(単位 千円)



八王子市政、今後の論点

◎「中核市」移行・・・新市長の目玉政策である、中核市への移行。市議会では特別委員会を設置して集中審議します。私は自治体が抱える諸問題を自己完結出来るように、権限と財源を拡大する事には賛成です。移行に伴い、住民サービスがどのように向上するか、が焦点です。

◎議会改革(議会基本条例)・・・約1年間、私も検討委員の1人として条例の素案作成に携ってきました。議会報告会、一問一答式、議員間討議の導入など、各会派の意見が分かれていましたが、今年度中に一旦結論を出す予定です。皆様に信頼される議会へ、改革を進めます。

◎基本構想・計画の策定・・・今後10年間の街づくりの指針となる、基本構想・計画の策定を今年度中に行います。市議会では特別委員会にてこれを集中審議します。私もこの委員に内定しました。